

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2022年 3月 4日

事業所名 キンダーハイム地域支援事業

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		・コロナ感染症対策として部屋に入る人数を決めている。 ・広い部屋のため隣に座る利用児同士の距離もとれている。	・広い部屋のため、活動内容に合わせて使い方を工夫しているが、これまでとは違う、広さを生かした遊び方を行っている。
	2	職員の配置数は適切である	5		・基準配置より多く配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5		・集中できる環境に整えており、目につく物が少なくすっきりしている ・椅子を置く場所、お集まりの会の場所など視覚支援と共に決まったコーナーを使いわかりやすくしている。	・活動に合わせ、視覚支援を行いながら利用児が理解し参加できるよう環境整備している。引き続きわかりやすい環境作りに努める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5			・空気清浄機の使用と常時換気し、コロナ感染対策を行っている。これからも換気と室温に気をつけ取り組む。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5			・今後も職員間で話し合い、取り組んでいく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		・去年の評価表からコロナ感染予防を行いながら保護者学習会や感想会を実施することの難しいグループはあるが、保護者の都合により療育の無い日に保護者に集まっていたいただき学習会など交流ができる場を設ける等検討する。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			・現在、掲示も行っているが見ていただきやすいよう掲示する場所やサイズを工夫する。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	3		現在、外部評価は行っていない。職員への周知を図る。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		・定期的な研修が行われ、毎回勉強になっている。 ・事例報告など年10回程度の研修の実施と個別にオンライン研修も行った。	・広く職員が研修を受けることができるようオンラインでの参加も行った。今後もオンライン研修も含め、学びの機会を作っていく。様々な種類の研修を勧めていく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>・6か月毎に保護者にアセスメント表に記入してもらって、それをもとに懇談をしている。</li> <li>・一人ひとりの利用児の状況を把握し、スモールステップの目標を設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント表への記入と懇談から、保護者のニーズや利用者の課題を分析し支援計画を作成している。今後も保護者のお話を丁寧にかがいが利用児や保護者のニーズ把握に努める。</li> </ul>
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者から提出された発達検査等の結果を参考にしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達検査の内容や項目の意味を理解できるよう、研修などで学んでいく。</li> </ul>
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用児の環境(幼稚園や保育園に在籍している、家族構成など)を把握し、家族支援の支援内容を設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用児の状況や課題を、職員が等しく把握できるよう、ケース会議や毎日の振り返りの時間に保護者からの聞き取りなどの情報を伝える。</li> </ul>
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援計画に沿って個別の関わりや集団での遊びなど、行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続きよい支援ができるよう職員間で意見を出し合っていく。</li> </ul>
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず複数人で行い、共有している。</li> <li>・会議で決めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々なアイデアを職員みんなで出し合っていけるよう、話しやすい会議運営に努める。</li> </ul>
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用児の状況(園行事の練習が多くなる時期 など)や気候も加味し、遊びを考えている。グループにより、子どもの成長の確認と本人が自発的に行動できるよう、数か月前に行った遊びを再度行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからも研修や本なども参考にし、新しい遊びを行っていく。</li> </ul>
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>・机上での制作などの個別活動とルールのある遊びや感触遊びなども集団活動を組み合わせている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染対策から机上での個別活動の頻度が高かった時期もあるが、感染状況を見ながら集団活動を入れてきた。今後も感染対策をした上で個別と集団の活動バランスに配慮し、取り組んでいく。</li> </ul>

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		・日案の確認を事前に必ず行っている	・日案の確認を行うことでスムーズに遊びを進めることができています。今後も事前準備や利用児への関わり方などを丁寧に確認する。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		・職員間で必ず振り返りを行い、次回の取り組み方を検討している。 ・実施前に予想していた姿が見られなかったか、考えていた対応ができたかを話し合っている。	・職員一人ひとりが利用児の見せた姿をどうとらえていたのかを出し合い、共通理解につなげることができるよう今後も話し合っていく。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		・療育後、利用児の様子を必ず記録している。	・引き続き、利用児の姿をわかりやすく記録し、支援を検討し改善するよう努める。
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5		・必要に応じて、半年を待たずに支援計画を見直している。	・定期のモニタリングだけでなく、子どもの様子に合わせ柔軟に支援計画を見直していく。
関係機関や保	21 障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		・児発管が参加している。 ・状況に合わせて、会議以外でも相談支援専門員とやりとりをしている。	・連絡のない相談支援専門員には、利用児や保護者の状況によりこちらから連絡を取るようしていく。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5		・家児相、保健福祉センター、他事業所とも連携し、情報交換をしている。 ・子育て支援関係者連絡会に参加している。	・コロナ感染予防もあり、区の担当者との会議が持ちにくい状況が続いているが、感染者数など状況を見ながら会議を設け、情報交換を行っている。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	2		・現在該当する利用児はおられないががおられるときは保護者を通して連携している。	・契約時に保護者からの聞き取りを引き続き丁寧に行う。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3		・現在該当する利用児はおられないががおられるときは保護者を通して連携している。	・契約時に保護者からの聞き取りを引き続き丁寧に行う。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		・必要に応じて直接関係機関とやりとりしているが、親子教室のため保護者と進路先に伝えることを話し合い、保護者を通して行うことも多い。	・引き続き懇談時に進路先に伝えることを保護者と話し合う。また、保護者の要望に合わせて進路先と直接やりとりを行う。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
護者との連携関係機関や保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		・必要に応じて直接関係機関とやりとりしているが、親子教室のため保護者と進路先に伝えることを話し合い、保護者を通して行うことも多い。	・引き続き懇談時に進路先に伝えることを保護者と話し合う。また、保護者の要望に合わせて進路先と直接やりとりを行う。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5		・他事業所と連携し、情報交換を行っている。	・コロナ感染予防もあり直接会ってやりとりすることは減っているが、今後もサービス職員会議などを通して連携する。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	2	・利用児は保育園等に通園しているためそれぞれの通う園で、日々ともに活動している。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5		・施設長や管理職、担当者が参加している。	・オンライン会議なども活用し、今後も参加していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		・親子での参加のため、自由遊びの時間を使い、家庭や園での様子なども含めた利用児の様子についてうかがっている。また、設定遊びへの参加の仕方なども利用児の発達の状況に照らしあわせ保護者と振り返りを行い、共通理解をはかっている。	・引き続き親子教室での利用児の様子を保護者に見ていただきながら、以前の様子との違いを確認し、今後の課題について話し合っていく。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4		・保護者学習会を行っている。 ・利用児がどのように取り組んだか等を、グループ終了後保護者にお伝えしている。	・保護者学習会で知りたいことを保護者からうかがい、ニーズにあったテーマもとりあげていく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		・契約時に質問をうかがいながら説明を行っている。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4		・懇談時に利用児の様子を振り返りながら支援計画について説明し、同意を得て実施している。	・懇談時に利用児の様子を振り返り、課題を共通理解した上で支援計画に同意していただけるよう、今後も懇談を丁寧に行う。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		・親子で参加する形態のため、その都度相談があった時には保護者とともに考えている。 ・懇談を定期的に行う以外に、随時保護者の要望で懇談を行っている。	・定期的な懇談以外でも懇談や電話での相談をお受けできることを、年度の始めや懇談時に再度保護者に周知する。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5		保護者学習会を開催する中で保護者同士の連携を支援している。 ・父母の会自体はないが、自由時間などに保護者同士が連携を取れるように配慮している。	・利用児の状況により、保護者学習会の実施が難しいグループがあるため、利用児に負担がないよう配慮し、別日での開催など検討する。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5		・保護者の要望に合わせ、随時懇談を行っている。また保護者の都合が合わず懇談できない時は電話にて相談を受けている。	・定期懇談の際、相談がある時は随時懇談を行うことを再度保護者にお伝えする。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		・毎月のプログラムと年2回の季刊誌を発行している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5		・ケースファイルは鍵のかかる棚に保管している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		・場面に合わせて視覚支援を行っている。	・現在使用している視覚支援グッズは、利用児や保護者の状況に合わせて見直し、新しいものを作成する。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3		・行事を行っていないが、入り口は入館していただきやすい作りになっている。そのため安全面の確保も合わせて行っていく。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5			・AEDの使い方や誤嚥時の対応などを消防署職員に来ていただき実施したことがあるが、不審者対応では警察署職員等に教えてもらえる場を作れないか検討必要。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		・各グループ年2回避難訓練を実施している。 ・どのような状況が想定されるか等、詳しく説明している。	・たくさんの利用児と保護者に参加していただけるよう、今後も毎月のプログラムで予定をお伝える。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5		・契約時の懇談にて確認している。	・引き続き6か月毎の懇談時にアセスメント表をもとに変更がないか確認を行っていく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	2	・現在コロナ感染予防から、クッキング等の食の提供は行っていないが、保護者同伴のため、保護者に確認をとっている。	・引き続き契約時の懇談や6か月毎のアセスメントで確認を行う。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		・終礼で確認している。	・新年度の会議で、環境の見直しを行う。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		・毎年研修を行っている。	・外部研修に積極的に参加していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5		・契約時に、直接利用児の体に触れる実際の場面を例にあげ説明している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。